

平成30年度

学校評価総括表

奈良県立吉野高等学校

教育目標		校訓の至誠・進取・剛健・親和を旨として、人権を尊重し民主的で平和な社会と新しい文化の創造に努める人間を育てる。				総合評価	
経営方針		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人の夢と希望の実現に向け、確かな学力を育むと共に、達成感と成就感を伴う多くの成功体験を保證することで、豊かな社会性と人間性をもつ生徒を育てる。 ○ 実学教育を推進し、生徒自らの未来を自分で切り拓くため、将来にわたり学習する意欲と態度を培うことで、地域社会の発展や産業の振興に貢献できる人材を育てる。 ○ 規律ある生活を通して、規範意識の育成や基本的な生活態度の涵養を図り、心身ともに健康で忍耐力のあるたくましい生徒を育てる。 				B	
平成29年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標			
<p>地域と連携した活動がより盛んになり、地域の子どもたちとふれ合う機会も多くなった。くくり募集の結果、教育課程を編成し直し、進路を見据えた選択が可能になった反面、各科の人数にばらつきができた。行事等では、まだ、生徒が主体となって動く場面より、教員が主体となる場面が多くあった。</p>		1 校外での挨拶、マナー等、規範意識の向上に努め、高校生として社会に通用する素養を身に付ける。		学校行事への主体的な参加、部活動、ボランティア等社会参画活動の推進を通して、生徒の規範意識を高め、自律する力を養う。			
		2 コミュニケーション力の充実を図り、地域と学校の活性化に努める人材を育成する。		課題研究発表会等で、自己の考えや調査結果を発信する力を養い、専門知識と技術を生かしながら、地域で活躍する有意な人材を育成する。			
		3 生徒に自分の進路を意識させることで、学ぶ意欲を引き出し、自ら進路を実現できる力を養う。		「進路学習プログラム」を基軸とした取組を確実に実施し、生徒が希望する進路の実現を図る。			
		4 地元地域の異校種間の連携を密にとり、地域に信頼される学校づくりを推進する。		三学科がもつ特徴的な教育活動を通して、地域コミュニティとしての役割を果たすと共に、「産・官・学の連携」をより一層進める。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
式典・渉外等	学校・家庭・地域社会が相互に協力して、開かれた学校づくりを推進する。	○式典・行事等において、例年通りのやり方にこだわることなく、いろいろな意見を取り入れ細部にわたって改善を重ねる。 ●分掌・学年・学科間の連携を密にし情報収集に努める。	A	B	諸先生方から、意見をいただき式典・行事等の進行方法を少しずつ工夫・改善(準備・片付け)し実施できた。しかし、まだ改善していく余地はあると思われる。	各分掌・学年・学科等と更なる連携を図り、諸先生方の意見を取り入れより良い進行方法を模索する。	オープンスクールでの地域の方々の参加については、現行の時期にするか、中学生に合わせて夏休みにするか検討が必要。 現在の日程では進路がほぼ固まってからのオープンスクールになっている。進路を考えている段階で見学ができる日程の方が生徒は集まりやすいと思う。 生徒が減るとともに保護者の数も減り、役員になっていただけの希望も減少している。
		○オープンスクールでの「ものづくり教室」において、地域住民との交流を深める。 ●地域住民の方々のニーズを探り、参加者数の増加を目指す。	B		地域住民の参加が昨年15名、今年度11名と参加増にはならなかった。しかし昨年同様に木工芸部の生徒のサポートがあり参加者に満足して頂くことができた。	各科で内容や、進行方法に工夫していただくと共に、木工芸部だけでなく、他の生徒のサポートも増やし地域住民と生徒の交流を図りたい。	
	○中学校訪問・オープンスクールの内容改善・各科の大会参加の成果をHPに載せるなどの広報活動を継続して行う。 ●活動の成果や問題点など関係者から意見を聞き、充実度を上げる。	B	事前に中学校訪問やHPでの広報を行ったが、高校適正化の影響もあるのか目立った成果を上げることができなかった。		高校適正化に伴い、本校が今後どのようにしていくのかを明確にし、広報活動を推進していく必要がある。		
	○育友会活動への積極的な参加と、役員間の連携や共通認識をより一層深め、活動を活性化させる。 ●役員の方々の各行事への協力体制の強化を図る。	B	高P関係においては、参加できる範囲で会長が積極的に参加していただいた。校内行事においても会長を中心にできる限りの協力をしていただくことができた。		参加役員の顔ぶれが同じであり他の役員の参加を呼びかける必要がある。加えて、参加可能な役員の選出が望まれる。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
学習指導	新学習指導要領に沿って学習の更なる充実を図る。	○基礎学力の向上を重点におき、これからの時代に求められる資質を持った社会人として活躍できるように、教育活動を展開する。 ●到達度別学級編制などを行うことで、綿密に基礎学力の定着を図る。授業内アンケートを実施し、生徒の満足度90%を目指す。	A	A	授業公開週間などを通じ、授業における教育効果の最大化を意図することで、各教科において基礎学力の向上に向けた多様な取り組みが出来たと実感している。到達度別学級編成については90%を越える高い満足度を得た。	基礎学力の定着には個人差が大きいため、授業以外での教育活動なども効果的に行っていききたい。	新学習指導要領の内容に対応し、観点別評価を取り入れる等の対応も必要になる。
	専門学科を持つ高校として、その特色を活かした授業展開を目指す。	○2・3年次における各専門科での授業において、課題研究を中心に専門性の高い内容に取り組む。 ●生徒の興味・関心に応じ、授業内容を精査することで、専門知識を生かした進路実現の達成率向上を目指す。	B		課題研究の授業や発表などを通じて、生徒達の自主的な表現を促すことで自主性の向上に努めた。	課題解決能力の育成という観点からも、より主体的に生徒が取り組める学習環境や教材を整備していきたい。	学習環境や教材のみならず、カリキュラムについても検討が必要になる。
生徒指導	吉野高校生の自覚を持ち、規律ある行動ができる生徒を育成する。	○さらなる特別指導の減少 ●特別指導、10件以下を目指す。規範意識を高める集会等を月1回行い、生徒の所属意識を高める。	B	B	本年度の特別指導件数は、11件となり、目標達成とはならなかった。特に重度の交通事故が、2学期に連続して発生した。今後の最重要課題でもある。	本年度以上に、問題行動の減少と交通安全教育に力を入れていく。免許取得に関する見直しを行う。	生徒の様子は年々良くなっている。飯貝区の中でも吉野高校の最近の生徒の様子は穏やかだと聞いている。
		○通学・乗車マナーのさらなる向上 ●1学期は乗車指導、2学期は地域指導、3学期は地域ターミナル指導に分け指導を展開する。	A		乗車や地域マナーに関する苦情は年間4件程度あり、1学期に集中している。現状に満足することなく継続していく。	現状に満足することなく再度、取組を続け、次年度にも繋げていきたい。	地域の話でも、挨拶ができる生徒が増えていると聞いている。
		○喫煙指導の徹底 ●6月より、月2回喫煙防止の一環として、プリントを配布し担任がSHRで展開を行う。	C		目標を月2回としていたが、月1回の活動となった。	喫煙指導は減少しているが、喫煙についての正しい知識を持たせる活動を継続していく。	喫煙防止のため、生徒向け指導資料を継続して配布・指導している。
	カウンセリングの充実	○生徒の心の相談にあたる。 ●月1回相談日を設置し、生徒が学習に意欲をもつように支援する。 ○不登校生徒への理解 ●学期に1回、外部の協力を得て、教員の研修会を持ち教員の知識向上等を図る。	A C		B	月1回の相談日を設定し、スクールカウンセラーに対応頂いた。生徒2名、教員5名の相談をして頂いた。生徒の対応に幅ができ、早急な答えを求めず、ゆっくり指導ができた。 外部の方の研修会は実施できなかった。	スクールカウンセラーには、学校保健委員会で指導頂いたが、不登校・心の問題についてはいろいろな考えを聞くことが良いと思われる。 次年度は早い時期に研修会を実施したい。
生徒会活動の充実	○生徒主体にて、各行事さらなる活性化を図る。 ●月に4回、生徒会と教員が会議を持ち、各行事の取組の見直しを図る。	A	A	昨年度以上に学校行事と地域活動に取り組み、生徒が自主的に活動を行った。特に警察との地域防犯や【ひまわりの絆プロジェクト】推進を継続中である。		現状に満足することなく再度、取組を続け、次年度にも繋げていきたい。	次年度はさらに主体的な行動につながる指導をしたい。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		○生徒会プリント配布 ●会議で月の目標を決め、朝のSHRで生徒会長から放送にて連絡し、活動を促す。	A		概ね全ての月で実施ができた。生活面から生徒自身が実行し、挨拶・服装・入室など改善が見られた。	来年度は、朝のSHRではなく、月1回の全校集会を行い、活動を促したい。	
進路指導・キャリア教育	生徒に自分の進路を意識させ、自ら進路を実現できる力を養う。	○Success Checksheet を実施し、自らの性格の特徴を把握し、自分の進む方向・指針をしっかりと見極める。 ●1、2学年に実施する。	B	B	1、2学年とも同じものを実施したので、学年ごとに内容を変える必要がある。	来年度は、1年生にSuccess Checksheetを、2年生には「職業レディネス・テスト」を実施する。	数年前に比べると3倍近い求人数があり、希望の業種が選べる状態である。また、就職後の離職は減っている。 森林科学科の生徒が、その方面でどのくらい就業しているか興味があったが、森林・木材関係の求人が0なのは予想外であった。 地域との交流で、吉野の木材を使った生産物を製作していると聞いている。地域の活性化に役立てば業界も活気づき、人材も必要になるのではないか。
		○進学や就職に向けた補充学習をより一層充実させる。 ●1、2年は基礎講座、3年は筆記試験対策講座を実施する。	B		学校行事や休業日と重なることが多く、回数がとれなかった。	学校行事等と照らし合わせ、曜日にこだわらず実施したい。	
		○進路に関する行事を外部講師を迎え、実施する。 ●2学期に進路ミュージカル、3学期に職業体験学習、面接の講座を実施する。	A		生徒数減で、体験学習の講座が開けない分野があった。	業者との連携をより密にし、出来るだけ生徒の要望に応えられるようにしたい。	
	社会人として必要なマナー、常識を身に付けさせる。	○3学年の「就職セミナー」を一層充実させる。 ●面接指導を通して、マナー、挨拶、服装、心構え等の向上を図る。	A		就職セミナー用のファイルを各自につくらせたが、あまり活用されていない。	就職セミナーでのプリントを綴じるだけではなく、年間を通じて活用するものにしたい。	
	進路先の学校、事業所との連携を密にとり、社会で求められる人材と生徒の個性の把握に努め、信頼され、期待される学校づくりを推進する。	○企業訪問を精力的に実施する。 ●卒業生の就職先への訪問を実施し、求められる人物像の把握と、本校の教育内容の周知に努める。	A		応募前見学の引率を通じ、多くの事業所に訪問できた。卒業生の就職先には進路指導部の先生方が訪問し、事業所と学校の相互理解を深めることができた。	ミスマッチを防ぐために、仕事内容の把握に努め、その情報を周知徹底する方策を練る。	
人権教育	教員の資質と能力の向上を目指し、計画的な取り組みを推進する。	○教員の研鑽を図るため、校内職員研修を実施するとともに人権教育HRの充実に努める。 ●人権HRの実施に当たり、指導案の作成、HR展開についての事前打ち合わせや事後報告等の研修を学年ごとに実施する。また教員の人権教育関連の研修会への参加について参加率100%を目指す。	B		夏期休業中に性の多様性についての職員研修を実施し、学校教育でLGBTについて教える意義を職員間で共通理解した。 人権HRの実施にあたっての指導案の作成・事前打ち合わせ等については、各学年別の実施することができた。	人権教育関連の研修会への参加率は高いが、人権教育部員に限らず、さらに多くの教員が参加できるようにする。 性的指向がいじめ等に関連している現実を踏まえ、性の多様性についてのHRの実施を検討する。 HR終了後、生徒達の感想や反応等の報告や研修を行い、さらなるHRの充実に目指す。	ほとんどの生徒が、本校を最後に社会に出る。教室で人権を学ぶ機会は限られてしまうので、しっかりと学んでほしい。 人権作文や生徒が主体的に考えられるHR作りが大切になる。
	豊かな人間性の確立を目指した人権教育の推進体制を確立する。	○生徒の実態を把握し、人権教育活動や授業に生かす。特に特別支援を要する生徒に対して、教員間でその情報を共有し適確な支援が行えるよう連絡・連携を密にする。			本年度は特に、身体的な面で支援が必要な生徒に対して、中学校訪問等で得られた情報を職員間で共有し、安心して学校生活を送れるよう配慮を行った。		LGBTやデートDVなど新たな課題がたくさんあり、それぞれをしっかりと理解する必要がある。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		<ul style="list-style-type: none"> ●家庭訪問や中学校訪問を実施し、内容を全職員で共有できるようにする。また「人権だより」を年3回以上発行する。さらに、部落問題学習や性の多様性のHRの実施を目指す。 	A	B	<p>学期ごとの「人権だより」の発行は行えたが、様々な人権問題について職員と生徒、保護者が共に考えられるような取り組みをすることができなかった。</p> <p>本年度は、現代社会の授業の流れから、人権作文をもとに部落問題学習のHRを実施した。</p>	<p>人権教育の各種団体によって行われる、教員と保護者が共に学ぶことができる研修会に、積極的に参加する。</p> <p>部落問題は決して人ごと、過去のことではなく、部落出身でない人々の意識や態度こそが解決の鍵を握っていることを理解させる事ができるようなHRの展開の仕方を検討する。</p>	
	<p>生徒の実態把握に努め、すべての生徒が生き生きと意欲を持って学校生活を送れるよう、人権教育の更なる充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の立場に立って物事を考え、人の心の痛みのわかる豊かな心の育成に努める。 ●生徒指導部・学年と連携しいじめをしない、そして許さない学校作りを目指す。また各種奨学金のわかりやすい案内を作成し、特に給付型奨学金については対象者への案内を徹底する。 	B		<p>生徒指導部が主導して「いじめ」をなくす取り組みを行ったが、人権教育部としては関わりが不十分であった。いじめが表面化した事象は見られなかったが今後も連携して取り組む必要がある。</p> <p>各種奨学金制度の利用希望者を対象に説明会や個別相談を実施し、わかりやすい資料の作成に努めた。</p>	<p>卒業後社会へ出て行く生徒が多い実態を踏まえ、3年間でより豊かな人権感覚が身に付けられるようなHR実施計画を考える。生徒達が安心して学業に励めるように、これまでの取り組みを継続させると共に、生徒や保護者の思いや願いをできるだけくみ上げることができるよう努める。また奨学金や奨学給付金が生徒達の教育を受ける権利の保障に確実につながるよう、学校代理受領の促進を働きかけたい。</p>	
文化図書	<p>文化祭の一層の充実と活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭実行委員会が中心となり、生徒主体で企画、運営等を取り行う文化祭にする。また、クラス毎に参加目標を明確にし、より有意義で工夫のある取組を展開させる。 ●生徒対象のアンケートを行い、満足度85%以上を目指す。 ○生徒が日頃の学習成果や取組の内容等を発表する機会を作り成果をお互いに確認することで今後の学習への意欲を高める。 ●発表する教科・領域の枠を更に広げ、昨年度以上に充実した研究発表会にする。 ○文化祭の近隣地域への公開を継続し、日頃の学習の成果を披露することで、開かれた学校づくりの充実と本校への理解に努める。 ●地域の方々が参加できる新しい取組を取り入れ、地域色のある文化祭にする。 	B	B	<p>耐震工事の影響が心配されたが、無事に実施することができた。また、文化祭実行委員が準備等を行った。しかし、委員会主導というより教員主導の文化祭であった。本年は、予算の都合で映画鑑賞会ができなかったがおむね満足できる文化祭になった。</p> <p>各科の研究発表を見ることで、学年を超えて各科の3学年の取組みや特徴を理解でき1年生の次年度の選択に役立った。</p> <p>学校近隣住民の皆さんへ500枚の文化祭のチラシ・招待状を配布し、課題研究や生徒作品を見学していただき、高評価をいただきと共に本校を理解していただいた。</p>	<p>学年当初にテーマを決め、実行委員会会議等を開催し、結果をHRに持ちかえり、各HRでテーマに沿った取り組みをし、生徒の関心を高める。</p> <p>各科の発表内容をより充実させるために各科独自の取り組みやより充実した発表をはかる。</p> <p>地域の方々と共に取り組むことのできる「物づくり」や地域に関わる研究・調査等工夫ある取り組みをし、より充実した文化祭を創造する。</p>	<p>文化祭やオープンスクール等地域の人々が参加できるのはありがたい。</p> <p>地域の現状として、お年寄りが多くを占める町なので、なかなか参加できない。お年寄りでも参加できる内容も考えていただくとありがたい。</p> <p>小・中と連携した取組も必要で、高校生活動を見てもらうことも意味があるのではないか。</p>

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
	図書室の利用促進を測る。	○図書室の環境整備に努める。 ●週2日以上図書室を開室し、図書室の利用率向上を図る。 ○「図書館だより」を発行し、図書に関する広報活動を積極的に行うと共に、読書の啓発を行う。 ●「図書館だより」を年2回発行する。	B		残念であるが図書室の整備をすることができなかった。次年度は、図書室の環境整備、蔵書点検等を行いたい。 図書室からの広報活動の一環として「図書館だより」を発行し読書の啓発を行った。	図書委員等の委員会活動を活発化し、図書室の環境整備や蔵書点検を行う。 「図書館だより」等を発行することで読書や図書にあるDVDの紹介をすることで、図書室に関心を持たせる。	耐震工事の関係で、蔵書点検や図書の貸し出しの活動はできなかったが、図書部の生徒の活動が続いているようなので、本に関心をもたせる指導をしてほしい。
	読書の楽しさや素晴らしさを認識させ、本を読む習慣を身につけさせる。	○生徒が読書に親しみ、楽しさを体感する取組を推進し、生徒の読書意欲を向上させる。 ●全校一斉読書会を年2回実施する。	B		全校一斉読書を一回実施できた。途中で読むのを止めるものもなく、最後まで読み切った。次年度は2回実施できるようにしたい。	読むのに時間がかかり、感想等の話しができていないので、読み物の内容を精選し生徒の興味・関心があるものにし読む時間の短縮をはかりたい。	
保健体育部	体育の授業や行事を通して専門的技術、体力、コミュニケーション能力の向上を目指す。また、生徒の主体性を身に付けさせる。	○チーム競技、持久走を強化し体力の向上を目的とした運動を毎回の授業で展開する。 ●生徒に応じた設定タイムや専門競技を行い、仲間との連携、個々の体力の向上を図り、達成率100%を目指す。	A	B	体育の授業ではコミュニケーション能力の向上を目指しチーム競技に重点を置き、授業を展開した。また、持久走を強化し、体力が向上した。 生徒自らが日常的にトレーニングできるようにすることが課題である。	さらなる体力の向上を図るためには、生徒自らが進んでトレーニングを行えるよう、運動が楽しいと思えるような意識付けが重要である。	生徒主体の行事や授業を心がけ、生徒の体力向上やマラソン大会のタイムの向上など成果が見られているようだ。 さらに運動が習慣づけられる指導をしてほしい。
		○生徒個々の体力に応じた目標を設定し、体力テストの結果の向上を図る。 ●本校の体力テストの平均値を前年度比で県及び全国の平均値に肩を並べる。	B		体力テストの結果は年次では少し向上傾向にあるが、県及び全国平均と比べると全体的に劣る。	日常の運動量は体育の授業等では不十分なので、生徒が日常に運動を取り入れられるよう、働きかけが必要である。	
		○授業の準備体操や集団行動、授業の準備・片付け等を生徒主体で行うよう徹底する。また、体育大会やマラソン大会の行事で生徒が主体的に活動できるように運営する。 ●達成率100%を目指す。	B		体育大会やマラソン大会などの大きな学校行事以外は生徒が主体性を持って活動できた。 ただ、大きな学校行事になると人数の影響もあって、生徒ができることは限られていた。	少ない生徒数でも大きな学校行事を生徒主体で行えるよう方策を考える必要がある。 まずは、体育大会においては競技種目や競技数、時間配分等を改めて考え直す。	
	○保健の授業で健康管理という観点に重点を置き、それぞれの分野の授業を展開する。 ●達成率100%を目指す。	A	それぞれの保健の授業で健康管理という観点に念頭を置き、授業を展開した。		授業等を通して健康管理の意識付けはできたと思うが、それを理解させるだけではなく、実際に行動に移していけるよう対策を考える。		
生徒に健康管理を行う力を身に付けさせるとともに日常生活で役に立つ知識を身に付けさせる。	○食育についての講演会やHR・保健の授業を利用して食に関する意識を高め、食育を推進する。 ●生徒の朝食摂取率90%を目指す。	C	B	食育についての講演会は今年度実施できなかったが、保健だよりを活用してのHRや保健の授業を通しての意識付けを行った。しかし、生徒の朝食摂取率は83%で、目標には届かなかった。	引き続きHRや保健の授業での意識付けはもちろん、講演会等を開催して朝食摂取の重要性を示していく必要がある。	アンケートの結果から朝食を食べていない生徒もいるようだ。食育指導をお願いする。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
環境整備	清掃美化活動を習慣化させる。	○清掃美化活動を習慣化させる。 ●担任と清掃監督の教員が連携をとり毎日清掃を実施する。行事の前後に美化委員を中心に全校生徒で大掃除を行う。 ○清掃活動を通して地域社会に貢献する。 ●生徒全員が年間2回以上通学路を清掃する。	A		先生方の指導により、毎日清掃が徹底されてきた。行事前後の大掃除が実施できた事で、他の場所の定期的な清掃活動ができた。生徒全員が通学路を清掃する事により、地域への貢献活動に取り組む事ができた。	毎日の清掃活動や通学路清掃を定着させる事により、生徒に校舎内外の美化意識を向上させる。清掃場所の監督と担任が連携をとり、清掃活動の充実を図る。	清掃活動が習慣化し、校内はきれいになったようだ。行事前の大掃除等で普段は行き届かない所もきれいにしていただいている。
	備品や設備の充実を図る。	○教室の備品や清掃用具などを管理する。 ●年間2回以上清掃用具や備品の点検、補充を行う。暖房器具の維持管理や適切な給油計画を立てる。	B		美化委員を中心に清掃用具の点検を行ったが、すべての箇所の用具交換はできなかった。ストーブの維持・管理と使用規定の徹底に努めた。	定期的な点検の機会を設け、用具交換の必要な箇所の優先順位をつけて対応する。業務員の方の協力もありスムーズな給油が行えている。燃料の節約した使い方も提示していきたい。	分別がされず、回収されなかったゴミがあったと聞く。分別の必要性を指導していただき、生徒も理解できているようだ。
	生徒の安全確保に努める。	○生徒の安全確保に努める。 ●防災訓練を年間2回実施する。 ○緊急時に救命処置や応急手当が行える知識と技術を習得させる。 ●普通救命講習を2年生全員受講させる。	A		地震を想定した避難訓練と消防署員指導による火災に対する防災訓練を行った。普通救命講習をとおして心肺蘇生法、AEDの使用方法などを習得させ、命の大切さと応急手当の重要性を認識させることができた。	繰り返し訓練を継続して行うことにより、生徒・職員ともに災害や緊急時に冷静に判断し、適切な行動がとれる能力を身に付ける。	地域と連携した防災訓練のあり方も考えてほしい。
森林科学科	農業クラブ活動の充実を図る。	○奈良県事務局校として、農業クラブ活動の充実と発展を図る。 ●クラブ員一人一人が年間を通じた運営に参加し、第69回奈良県学校農業クラブ連盟大会の成功を目指す。	A		事務局校として、他校と連携しながら第69回奈良県学校農業クラブ連盟大会を成功に導いた。また、プロジェクト発表会では吉野地域や企業との連携について発表し優秀賞を受賞した。	地域の課題解決や資源活用及び森林環境等についてプロジェクト活動を継続的に取り組むことと、実績を重ね評価を高めるとともに、各校と連携して、適正な大会運営を行う。	農業クラブ、よしの調査隊等の地域との連携事業が多くある。筏流しや吉野川左岸景観美化活動、河川水質調査など主体的に社会に貢献できる生徒を育てていただいている。
		○交通安全啓発グッズやハボタン配布等のボランティア活動に積極的に参加し、社会性を培う。 ●各学期に1回以上の活動を実施し、地域に貢献する。	A	A	農業クラブ役員を中心に、諸行事の計画を立て、それぞれの目的を達成しようとする意識をもつことで、意欲的な取り組みとなり、成果につなげた。	社会参加の取組を一層拡充させ、生徒一人一人の地域交流の意識やボランティア精神を更に高め、主体的に社会に貢献できる生徒を育てる。	
	学科の特色を生かした地域貢献を進める。	○吉野の良さを本校から発信し、地域の発展に貢献する。 ●森林科学科の更なる活発な活動を図り、地域の魅力的な情報を全国に発信する。 ○吉野林業活性化を目指し、作業道整備に向けた学習活動を充実させる。 ●演習林や学校近隣の森林整備を行う。	A	A	吉野材を活用したコーヒードリップホルダーの開発や小学生と協働水質調査など吉野材の魅力発信や吉野地域の環境等について周知した。また、吉野川での筏流しイベントも成功させた。	吉野地域の資源活用を行うとともに、吉野地域の自然的景観や生物多様性、伝統ある文化・歴史を魅力ある地域産業としてSNSを活用して、今後も世界に向け発信していく。	
		○吉野林業活性化を目指し、作業道整備に向けた学習活動を充実させる。 ●演習林や学校近隣の森林整備を行う。	B		清光林業(株)の岡橋清隆氏を社会人講師として招き、作業道作りの講義を受講させた。愛染演習林への作業道の建設計画を含めた調査研究活動を続ける。	愛染演習林の作業道敷設に向け、課題研究テーマとして作業道プロジェクト班を立ち上げ、意欲的に取組を進めていく。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
建築工学科	生徒の希望する進路実現に向けた取組を進める。	○早期から資格取得・検定試験に対する意識を芽生えさせ、受検者を増加させ、取得に向けた対策講座等の充実を図る。 ●各種資格取得・検定合格率80%以上を目指し、取得生徒数を増加させる。	A	A	資格取得への意欲を高め、資格の種類や受験者を増加させることができた。また、長期休業期間や放課後を有効に活用し、対策講座等を展開できた。 全体では各種資格取得・検定合格率は概ね目標値を達成することができた。	生徒の資格取得の意欲は向上しているので指導方法にさらなる工夫を加え、資格取得者の増加を図る。また、資格の種類や上級への合格に向け、対策講座等を継続していく。	吉野中学友灯り工房行灯作成サポートでは毎年技術的なサポートをしている。産・官・学協働の事業であり、継続して実施してほしい。 資格取得に対する補習に関する事やさらにそれぞれが上級に挑戦する事ができるような指導をお願いしたい。
		○課題研究等あらゆる場面を通してプレゼンテーション能力の向上を図る。 ●課題研究等の充実を図り、学科内発表会をさらに充実させる。	B		授業や発表会等で意見交換やプレゼンテーションを行い、他者に自分自身の意見等を伝える活動を展開できた。	プレゼンテーション能力等の向上のため、早い段階から生徒が主体的に活動できるように取組を幅広く展開していく。	
	学科の特色を生かした地域貢献を進める。	○さまざまな機会を通して地域社会や保護者を含めた小・中学生等に建築工学科ならではの支援活動を行う。 ●地元中学生を対象に「吉中友灯工房」を、地域住民対象に「ものづくり教室」を開催する。 ○「地域と共にある学校づくり」を推進する。 ●地域イベントへの参加や営繕に関する建築の専門知識・技術を生かし地域に還元する。	A	A	吉野中学生を対象に夏期休業中に「吉中友灯工房」の技術指導を行った。 オープンスクールでは、地域の方々を対象に「作れる家具」として、木製の台(イスとしても使えます)の制作を実施した。	今後も「吉中友灯工房」を継続指導したり、地域住民を対象に意欲的に支援活動等の取り組みを進める。 オープンスクールの実施内容は好評なので、幅広く地域の方が参加できる工夫をする。	
土木工学科	専門分野の知識・技術の深化を図るため、資格取得や各種大会へ積極的に参加する。	○生徒個々の進路実現を目指して、積極的な資格取得を奨励し、対策講座の充実を図る。 ●各種資格取得者を前年度より更なる増加を目指す。	A	A	生徒一人一人に応じた進路指導を展開する中で、各種の資格取得に向けた意欲喚起を図り、対策講座の実施により目標値を達成することができた。	生徒個々に喚起して、資格取得への意欲の高揚を図り、進路実現に向け、早い段階から対策を講じ資格取得者数の増大を図る。	本年は、「コンクリートカヌー競技大会製作の部優勝・総合の部準優勝」「橋梁模型製作コンテスト会場製作部門最優秀賞・学生部門最優秀賞、優秀賞」受賞「2級土木施工管理技術検定学科試験合格」などの結果を聞いている。来年度も引き続き指導をお願いする。
		○最新技術の体験・建設現場見学を取り入れ、意識の高揚を計る。 ●社会人講師を活用し、「測量に関する最新技術の習得」や、「コンクリート打設方法」に関する授業を年間6時間以上実施し、内容の充実を図る。	A		各建設組合が行う施工実習講座での実技体験や、社会人講師(6時間)を取り入れ、総合測量を行い、構造物製作の基礎から計画・実施を通して、生徒の専門的な知識・技術の向上と講演による意識向上を図った。	外部講師による講義・実技を今後も継続して行い、より専門性の高い知識・技術の習得につなげ、「学習の質」の一層の向上を図る。	
		○各種競技会・コンテストに向けて、新しいデザインに取り組み、強度・重量共に条件を満たした高度な作品を目指す。 ●「セメントカヌー競技会」及び「建設技術展近畿橋梁模型コンテスト(学生部門)」で連続上位入賞を目指す。	A		建設技術展近畿橋梁模型コンテストは、学生部門においては最優秀賞、優秀賞を会場製作部門においても最優秀賞を受賞する。 セメントカヌー競技会では、製作の部で1位、アイデアの部・競漕の部で、それぞれ3位入賞し総合で準優勝に輝いた。	セメントカヌーでは、「カヌーのデザインやセメントの軽量化・強度化、加工技術に関する研究」を、橋梁模型では、「橋梁の特性と使用する材料の加工技術の研究」を更に深めていく。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
	学科の特色を生かし、営繕活動を通して貢献を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の実習を通して、専門知識・技能を深め、環境整備・環境改善を図る。 ●土木工学科の専門技術を生かして、校舎内外の営繕活動を推進し、環境美化を図る。 	A	A	土木実習場のスロープ部に階段の施工や、溝蓋を製作し校舎周辺に設置し環境美化に取り組んだ。	専門知識・技能を生かし、環境整備・美化をテーマに、改善を加えながら継続した取り組みを推進する。	
第1学年	<p>基本的な生活習慣を身につけさせ、自立した高校生活を確立させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学年やクラスの目標をもとに、欠席や遅刻、早退のない生活習慣を定着させる。 ●出席率90パーセント以上を目指す。 	B	A	中学校時には、長期の欠席で学校に登校しなかった生徒や、教室に入らず他の教室で過ごしていた生徒が数名入学してきたが、入学後は自分の生活状態を改善して、欠席や遅刻をせずに登校する習慣を定着させつつある。退学する生徒もおり、十分な指導ができなかった面もある。	長い時間をかけて身についた生活習慣を改善することは、かなり難しいことであるが、生徒の自覚を促し、家庭の理解と協力のもと、時間をかけて継続的に取り組む必要がある。卒業後は社会で活躍できる人材となれるように、適切な生活習慣を確立することの大切さを伝え続けなければならない。	各学年適切に取り組んでいる。
<p>学習意欲を向上させ、将来の進路決定に向けた意識を高めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業への遅刻や欠席を無くし、授業に集中できる環境を整える。 ●教室移動時の遅刻を無くす。 	A	A	授業を大切にすることを徹底して生徒や保護者に伝えた結果、授業への遅刻や欠席は、移動教室での授業に時間をとられるなどの場合を除き皆無であった。2年次からの学科選択に向けては、進路指導部・教務部の指導のもと計画的に実施できた。定期考査の重要性を重ねて指導したが、100パーセントを達成することができなかった。	学習活動の基本は、授業を大切にすることであり、遅刻や欠席のない、落ち着いた取り組みが、自分やクラス・学年全体の学力向上につながることを伝え続けなければならない。2年次からの学科選択に向けては、生徒の希望や資質に応じて、計画的に実施する必要がある。		
<p>けじめある学校生活を確立し、部活動やボランティア活動への参加を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の「生徒心得」を守り、高校生として自覚ある行動を定着させる。 ●生徒指導上の問題行動のゼロを目指す。 	B	A	1学期、2学期とも生徒指導上重大な問題行動があり、目標達成には至らなかったが、このことを題材に学年全体の生徒指導を展開し、自らの行動を正す機会に繋げることができた。	以前に比べて、生徒指導上の問題行動は減少したが、本来皆無であることが正常な学校生活であるための指導を徹底する必要がある。生徒の特別活動に対する意識は向上しているため、自分たちの生活環境の改善や地域への貢献活動の意義を確認させながら、積極的な参加を呼びかけていく。また、有意義な学校生活を送るという観点からも、途中参加も含めて部活動への参加を呼びかけ続ける。		
	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動顧問や生徒会顧問と連携を図り、部活動や生徒会活動、ボランティア活動への参加を推進し、特別活動に意欲的に取り組める生徒を育てる。 ●生徒の部活動およびボランティア活動への参加率30パーセント以上を目指す。 	B	B	残念ながら部活動への参加については低い参加率にとどまったが、生徒会活動やボランティア活動には積極的に参加することができた。今後も地域への貢献を心がけたい。			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
第2学年	<p>基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目指す。</p>	<p>○欠席、遅刻のない習慣を定着させるため、学級で重点的に指導する。 ○高校生として常識ある判断と自覚ある言動を定着させる。 ●出席率95%以上、特別指導0件を目指す。</p>	B		<p>特定の生徒に遅刻が多く見られ、改善させることができなかった。 2学期に二輪車に関する事故が続き、生徒の認識不足を指導しきれなかっただけでなく、目標も達成できなかった。</p>	<p>進路につながる最終学年としての自覚と責任を認識させ、各個人で目標を持たせたり、取り組みの工夫をさせる等、自己啓発的に改善を促す。</p>	各学年適切に取り組んでいる。
	<p>学習意欲の向上と進路意識の高揚を図る。</p>	<p>○授業に対する意識を高め、考査や提出物への意欲向上を図る。 ●定期考査への出席率と提出物の提出率をともに100%を目指す。</p>	B	B	<p>考査に対しての意欲はあるものの、一部の生徒に授業中寝てしまう姿が見られることもあり、また提出率の目標達成には至っていない。</p>	<p>卒業に向けてのイメージを持たせ、積極的に授業に参加する姿勢を定着させるために、教科担当と連携し、授業方法の工夫をしながら目標達成を目指す。</p>	
	<p>ボランティア活動への参加を推進する。</p>	<p>○ボランティア活動に参加することで、学校や地域への所属意識を高めるとともに、コミュニケーション力の充実を図る。 ●各活動に学年より必ず参加者を出す。</p>	A		<p>交通安全グッズの配布等、学校内外の活動に積極的に参加し、地域との交流を深めることができた。</p>	<p>特定の生徒だけでなく、参加の幅を広げるとともにより充実した活動ができるように、企画から生徒の意見を取り入れていく。</p>	
第3学年	<p>生徒の進路意識を高め、進路実現に向け意欲的に取り組む姿勢と態度を身に付けさせ、社会で通用する生徒を育成する。</p>	<p>○一般常識や面接・小論文指導等に取り組ませ、進路実現を図る。 ●進路決定率100%を目指す。 ○「進路学習プログラム」を基軸に、第3学年のステージに応じた取組を展開する。 ●早期に目標を定め、主体的・積極的に取り組む姿勢を養い、進路実現を図る。</p>	B	B	<p>進路実現に向け、様々な形で多くの先生に関わって頂き進路決定率100%を実現できた。しかし、生徒一人一人の進路に対する意識は個人差が大きく、今後意識の差をどのようにして解決できるのかをしっかりと考えなければならない。</p>	<p>進路に対する考えや意識の差を少しでもなくすため、個別での対応が不可欠と考える。進路指導部を中心にクラスの担・副とコミュニケーションを図りながら、個々の生徒に対応する時間を多く作らなければならないと感じた。</p>	各学年適切に取り組んでいる。
	<p>最終学年として学校行事や特別活動等に主体的に取り組む姿勢と態度を育成する。</p>	<p>○高校生活最後の1年を意義のあるものとするため、学校行事等に主体的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ●吉野高校での生活満足度90%以上を目指す。</p>	A	B			